

1ねん学年だよ!

平成30年6月13日(水) 第12号



一泊移住が終了!



楽しみにしていた一泊移住が、6月7日(木)～8(金)に実施されました。天気が心配されましたが、最後の最後を除けば、ほとんど予定通りのプログラムを実施することができたのは、61期生の未来を象徴しているのでしょうか。“最後の最後”、詰めを甘くしてはいけないということだと自らを戒めようと思います。さて、中学生になって最初の大きな行事となる一泊移住を無事に乗り越えたということで、今回の学年だよりは、《一泊移住特集》として総括したいと思います。



*

最初のプログラムは、少年自然の家の裏山を舞台におこなわれる【オリエンテーリング】です。大阪府内とはいえ、奥貝塚ともいわれる少年自然の家の裏山は案外深く、高低差もあります。階段の連続に音をあげそうになった人も多いのではないのでしょうか。展望台に到着する人は誰もが汗だくになっていたけど、その声には元気があって、キラキラと輝く目が印象的でした。無事にすべての班が展望台を通過し、元気な足取りで次のチェックポイントに向かって再出発していきました。



夜は【室内レクリエーション】です。委員長が中心となって司会進行・模範演技・招集・審判など、すべての役割を務めました。少ない人数で進行していくため、少々手間取ったところもありましたが、学年みんなの協力もあり、たいへん盛り上がった時間となりました。昼間のオリエンテーリングで相当疲れていたはずなのに、そんなことを感じさせない元気さで、61期生の“底力”を感じました。

2日目のメインは【野外炊飯】です。ところが、活動を始めるぐらいから雨が降ったりやんだり、降ったり降ったり、さらに降ったり降ったり……。最後の後片づけのときには、豪雨といえるぐらいの強い雨になってしまいました。ただ、みんなで協力して作ったカレーライスは、どの班も上手にできていて、とてもおいしくいただくことができました。特に、お鍋で炊いたご飯なのに、どうしてもなく焦げついてしまった班は少なく、その分、後片づけにかかる時間も短かったと思います。



主なプログラム以外でも、一泊移住では「時間通りに動く」ということが成功のポイントになります。その点では、前日指導の際から不安要素がありましたが、一度注意した後は徐々に動きがよくなりました。たとえば、最初はゆっくり歩いていた人が、次には駆け足で集合するようになり、さらには、そもそも駆け足をしなくてもいいように、時間に余裕をもって集合するようになるなど、1人ひとりを見ると、どの人も行動に変化や成長が見られました。今後の課題も明らかになりましたが、全体を通していうと、61期生の秘める大きな可能性を感じることでできた一泊移住でした。



一泊移住が61期生に残したもの

一泊移住を通して、61期生の素直で前向きなところ、優しい気遣い^{づか}ができるところなど、たくさん発見することができました。しかし、それと同時に、今後の課題も見えてきました。まだまだ集団の中での話や指示を正確に聞き取ることができていません。係が代表して聞いてきた話を他の人への確に伝えるという点でも課題を残した班がいくつかあります。「これぐらい大丈夫だろう」、「少しぐらいいいだろう」と思って、時間に遅れる・動きを間違えるなどして、先生たちから注意・指導を受けた人もいます。また、せっかく時間通りに集合できているのに、待っている間に“いらんこと”をして注意を受けた人もいました。さまざまな約束事を、自分の都合のいいように解釈し、その結果、間違えてしまうということもありました。自分のことで忙しくなったら、周りの人への当たり方が乱暴になってしまうのは、おそらく誰もが あることですが、やはり61期生にも見られました。



しかし、先生たちはまったく悲観^{ひかん}していません。なぜなら、どんな注意・指導のときも、キミたちはそれを素直に受け止め、全力で修正しようとしていたからです。ちなみに、そういう姿は、前日指導のときから一泊移住当日まで、3日間のいたるところで見られました。まだ1年生であることを考えると、初めから失敗をしないことより、失敗した後の修正こそが大切だと先生たちは思います。その点、一泊移住で見られた素直さを失わなければ、今後、何をすることも楽しむことができるし、つらいことも乗り越えられるし、どんどん成長していくこともできます。

思えば、一泊移住は1人ではできないプログラムばかりでした。普段の学校生活でも、学校だからこそできる体験や、集団だからこそ学べるものがたくさんあります。これからの学校生活で、キミたちの良いところは一層伸ばし、課題のあるところは素直に学んで修正していきましょう。そうして、規律ある学年集団、笑顔のあふれる温かい学年集団を築いていきましょう。委員長が学年スローガンに取り入れた言葉【最高の61期生】への第一歩が、いよいよ踏み出されました！！

**61期生にとっての“次のハードル”は何になるでしょうか？
やはり、2週間後に控える《期末テスト》といえるでしょう。
その“次のハードル”を越えるためには何から始めますか？
いやいや、そんなに難しく考える必要はありません。
ごく普通の、当たり前前の学校生活の中にヒントがあります。
まずは何より《授業》です。忘れ物をせず、集中して…。**



保護者のみなさまへ

一泊移住に際しましては、ご理解とご協力を賜り、ありがとうございました。学校ホームページや子どもたちの話などご存じかもしれませんが、61期生は一泊移住を有意義に終えることができました。今回の“気づき”や“学び”をこの2日間で終わりにすることなく、今後の学校生活の中でも生かしていきます。「61期生」という学年はまだまだ始まったばかりです。今後に期待していただきたいと思ひます。